

「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の構築による 広域連携型学士力向上プログラム

れんけい

大学のさまざまな「資産」を活用し、「地元貢献する」大学づくりをすすめます！！



大学間交流セミナー in 只見

教員養成・研修高度化プログラム

福島県の教員になりたい学生のための大学間交流セミナー

ど、実りある企画となりました。

9月10日・11日に只見町の全面的協力を得て実施

【参加大学】：いわき明星大学、郡山女子大学・短期大学部、東日本国際大学、福島大学、桜の聖母短期大学の学生31名が参加。

本プログラムでは、福島県の大学・短大で学ぶ教員・保育士志望の学生が、明確な目標を持って将来のための勉強や準備を進められるように、福島県の教育現場を参観して実情を知り、現場の先生方の話を聞き、質問をする機会を設けました。

【引率】：谷雅泰先生（福島大学・プロジェクトチームリーダー）、原野明子先生（福島大学）、大橋保明先生（いわき明星大学）、井澤直也先生（いわき明星大学）、伊尻正一先生（東日本国際大学）、上遠野和村先生（連携センター）、七島貴幸研究員（連携センター）

セミナーを通して、こころざしを同じくする各大学の学生同士が積極的に意見交換を行うなど交流を深める姿も見受けられました。連携校の教職員、さらに只見町教育委員会の多大なる協力のおかげで、大変充実したセミナーとなりました。



只見町教育長ならびに教育委員から「地域で求められる教師像」などお話しいただき、只見町側からも次年度以降の継続実施を期待する声もあがるな



目次:

| | |
|--------------------|---|
| SD講演会 | 2 |
| アドミニストラーター養成講座 | 2 |
| 生涯学習共同パンフレット発行 | 2 |
| 猪苗代湖「水質日本一」奪還を目指して | 3 |
| DVDドラマ制作進 | 3 |
| 「福島学」実施計画 | 3 |
| ブナの森 | 4 |

全国コンソ研究交流フォーラムポスターセッション 岩本研究員 レポート

9月11日と12日の2日間、「第7回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」に参加

た。

私は今回が初参加となったのですが、全国のお他コンソーシアムの状況を知る絶好の機会となったこともあり、たいへん良い刺激を受けた参加となりました。

配布資料として用意した「ふくしまの大学」は、文字ばかりの報告書や資料に食傷気味なコンソーシアムが多いため、写真やイラストで埋められた華やかな紙面が功を奏し、最も注目された資料となりました。

この中のポスターセッションでは、我々が福島の事例を全国に向けてご紹介して参りました。会場では、多くのコンソーシアムから単位互換制度について、財政的な独立性の可能性とそのときの運営に関する質問そして、12のプログラムの実施を可能にさせている運営体制などについて、多くの質問がありまし

また、名前が目立ったこともあって「生きる力」養成プログラムに関する質問も多数寄せられ、注目された展示ブースの一つとなりました。来年のフォーラムでは、福島の事例を参考に発展したコンソーシアムが出現していることを期待したいものです。

福島大学会場風景



テレビ会議システムで参加された各大学のみなさん



講師と参加者



テレビ会議システム参加者



生涯学習Pのチームミーティング



テレビ会議で議論中



テレビ会議システムによる遠隔講演！

SD合同研修プログラム

大学職員は変わる

8月27日、福島大学において、県内大学合同による「SD講演会」を開催した。

本プログラムでは、事務系職員の資質向上を目的とした「SD合同研修プログラム」を実施しており、今回のSD講演会はその一環として開催され、県内7機関から60名が参加した。また、本講演会は、戦略的大学連携支援プログラムにおける初めての試みとして、**テレビ会議システム**を使い、福島大学をメイン会場に県内7会場を結んで開催した。

SD講演会は二部構成とし、第一部では、**慶応義塾 塾監局 参事 上杉道世氏**が「大学職員は変わる」と題して講演を行った。講演では、東京大学事務局長及び理事の4年間で実施した様々な改革の経験に基づき、これからの大学職員のあるべき姿や大学職員

の実践的な養成方法の話がされ、受講者は熱心に耳を傾けていた。

第二部では、国公立大学のそれぞれの取組みについて代表大学による発表が行われ、福島大学監査室長の野内 正氏から「業務改善に関する取組みについて」、会津大学事務局主幹の山田耕一郎氏から「SDの取組み（会津大学の行動規範）について」、福島学院大学総務部長の鈴木展子氏から「SD研修への取組みについて」の事例発表があった。

参加者との質疑応答の後、講師の上杉氏から各発表大学のSDへの取組みについて助言等があり、テレビ会議システムによる活発な意見交換が行われ、有意義な情報交換の機会となり、盛会のうちに終了した。



再び！テレビ会議システムによる遠隔講演！！

SD合同研修プログラム

アドミニストレーター養成講座

9月10日、福島大学において、「アドミニストレーター養成講座」を開催した。今回の講座は戦略的大学連携支援プログラム「SD合同研修」の一環として開催され、県内7機関60名が参加し、テレビ会議システムで行われた。

講座では、事務職員の管理運営への参画において先進的な改革を推進し、自らも事務職員出身である日本福祉大学 常任理事 篠田道夫氏を講師としてお招きし、「大学職員論—戦略経営の確立を担うプロとしての職員の育成」と題して講演を行った。大学を巡る最新の動向を紹介しながら、戦略経営を行って

いく上での職員のあり方についての話があり、受講者は熱心に耳を傾けていた。

同氏からは職員の専門性について、「大学のアドミニストレーターとは政策や方針に基づく業務遂行だけでなく、方針をより豊かに具現化し大学を作り上げる一翼を担うことが本質である」と提言をいただき、SD合同研修プログラムの目標の1つである「アドミニストレーターの養成」に向け、貴重な講演となった。

講演後は、他大学参加者からの質疑応答も行われ、終了後も質問が相次ぎ、盛会のうちに終了した。



生涯学習共同パンフレット発行

生涯学習プログラム

いつでも だれでも 大学生
Vol.1(創刊号)を発行しました。

創刊号は、県内各大学等の「生涯学習」への取り組みを紹介し、次号以降は定期的（年3回予定）に具体的な各大学の生涯学習講座の情報を盛り込んだパンフレットを発行します。

創刊号の巻頭対談では、「**大学が担う生涯学習の役割とは**」と題し、清水修二先生（福島大学副学長・大学連携センター長）、三瓶千香子先生（桜の聖母短期大学・生涯学習プログラムプロジェク

トチームリーダー）、木暮照正先生（福島大学）が対談を行っています。

本プログラムでは、これまで各大学等が個別に行ってきた広報を集約して市民に提供することで、効果的・効率的な生涯学習情報の提供が可能になります。さらに、各大学等がもつ広報ノウハウを持ち寄ることで知識と経験の集約も可能になります。

一人でも多くの地域の方に届くよう、参加大学や公民館などでの配布を予定しています。

「水質日本一」奪還を目指す！

「福島学」プログラム

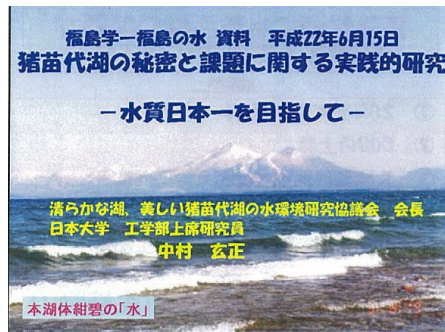
猪苗代湖の漂着水草回収に 学生ボランティアを募集！

ACFが「清らかな湖・美しい猪苗代湖水環境研究協議会」と共催して実施する「猪苗代湖の水質保全のための水生植物回収事業」（湖岸漂着水草回収）の学生ボランティア行動日を10月23日（土）と同30日（土）とし、学生の参加を呼び掛けています。

現在のところ23日は募集定員40名で福島駅から、30日は募集定員80名で郡山駅と日大前から湖岸・天神浜までの送迎バスの運行を計画しています。

この関連で、福島大学の「福島学」

プログラムである「福島研究」（鈴木典夫担当）では、同プログラムの個別テーマ「福島の水」調査を実施している日大・中村玄正名誉教授による猪苗代湖に関する講義を10月20日に行うこととしています。



漂着水草清掃作業中のボランティアのみなさん



2010/08/29【福島民報】
Web版ニュースより

DVDドラマ制作進行中！！

「生きる力」養成プログラム

続報！！

DVDドラマ制作スタッフの勢いは止まりません。

福島大学から2名の職員が出演します！！

9月に入り、いよいよ「起き上がり小法師」ドラマDVDの撮影準備が本格始動し、早速、カウンセラーを演じる本学職員に対する演技指導が行われました。

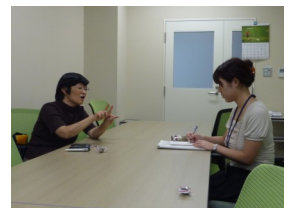
9月2日には、カウンセラー役で参加する教務課の早坂美春さんに対して、また翌週の9日には共生システム理工学類支援室の猪股淳行さんに対して、本職のカウンセラーの先生による指導が行われました。カウンセラー

として相談者である学生の話聞く態度や、椅子に座るときの位置や座り方、更には服装や語調、メモの取り方など、細部まで本格的な演技指導が行われていました。

お二人とも熱心に専門家のカウンセラーより説明を聞かれ、不明な点に関する質問を積極的にするなど、役作りに励んでおりました。

撮影は12月に入ってからとなりますが、それまでの間は台本をもとにした、各々の役作りのためにイメージを膨らませる作業が続きます。このお二人がドラマの中でどのようなカウンセラーを演じるのか、期待が高まります。

カウンセラーの先生から指導を受ける出演者



ミーティング中の出演者



相互授業見学、相互講師派遣の実施計画

「福島学」プログラム

テキスト編集で 発行スケジュールなどの協議

8月31日の福島医大での第2回全体会議で、
①福島学共通授業の構築では、相互授業見学として、福島医大では12月、福島大学では1月、また、日大では秋期公開講座を計画していること、また、講師の相互派遣として、上記した日大から福大へ、福大から医大への講師派遣が具体化していることが示された。②「福島学」テキストの編集・発刊では、各大学が調査している個別テーマ（日大：福島の水、福医大：新聞から見る福島の医療、桜の聖母：社会変革に生きた福島の女性、国際化

に対応した観光サポートボランティア、福島高専：GISを活用した「いわき学」の創出）と福大が担当する「総論」の構成案や発行スケジュール、執筆者の名簿作成について協議し、12月に執筆者会議を開催することとしました。



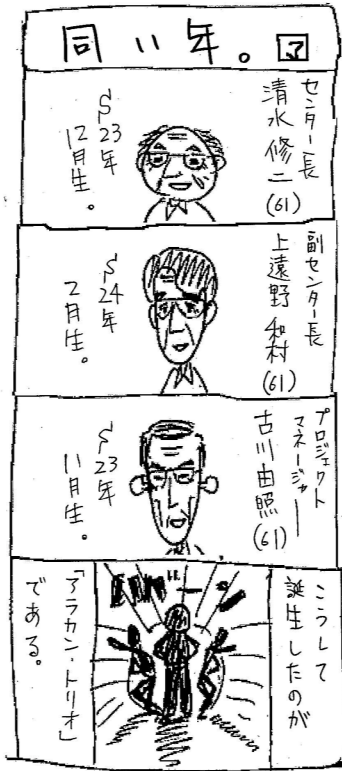
福島学プログラムチーム
ミーティング



公開講演会 福島の水
日大にて



地域のにぎわいは地域に根ざした人づくりから



“ふくしま”の魅力 “再発見”

研究員 七島貴幸

わたしは“ふくしま”出身です。
生まれてから幼・小・中・高・大～現在まで、ほとんどの時間を“ふくしま”で過ごしています。

これまで、地元“ふくしま”についての質問をされることも多くありましたが、恥ずかしながらまともに答えられたことはほとんどありませんでした。今まで“外”にばかり目を向け、地元“ふくしま”の良さをよく見ていなかったような気がします。

このたび、大学連携センターのメンバーとなり、会議やイベントにて県内各所を訪れ、様々な場面で“ふくしま”の良さを体感することが増えました。改めて“ふくしま”に思うこと。“ふくしま”は「教育」に適した地域であると思います。

(理由はいろいろありますが、また別の機会に・・・)
連携事業では、「れんけい」の各報告をご覧いただいたとおり、“ふくしま”で学ぶ学生の為に、県内大学等の教職員、各自治体、地域の人々が一丸となって取り組んでいます。「個性」ある大学等が集積した“ふくしま”だからこそ、「連携」して、これまでにない企画を実現することが可能になると思います。

『“ふくしま”で学ぶ学生の為に・・・』は、同時に自らの『“ふくしま”再発見』の機会ともなり、楽しみながら活動させていただいております。



七島研究員レポート

ブナの原生林 癒しの森

9月11日に教員養成・研修高度化プログラムの交流セミナーin只見に参加した学生とともに只見町のブナ林「癒しの森」を散策しました。

只見のブナはまっすぐ成長するそうです。



学生に説明する森の案内人

<これが噂の?>ワライダケ



セミナー参加者・森の案内人と記念写真

癒しの森とは、只見町と金山町との境のブナの原生林を呼んでいる。地元の有志がボランティアで整備した遊歩道があり、風とブナの葉音、小鳥の鳴き声だけが聞こえてくる明るく静寂な森です。
詳しくはHP <http://fuzawa.jp> をご覧ください。



アカデミア・コンソーシアムふくしま



国立大学法人

福島大学
Fukushima University

福島大学
大学連携センター

編集・発行
大学連携センター
TEL.024-548-5295
福島市金谷川1